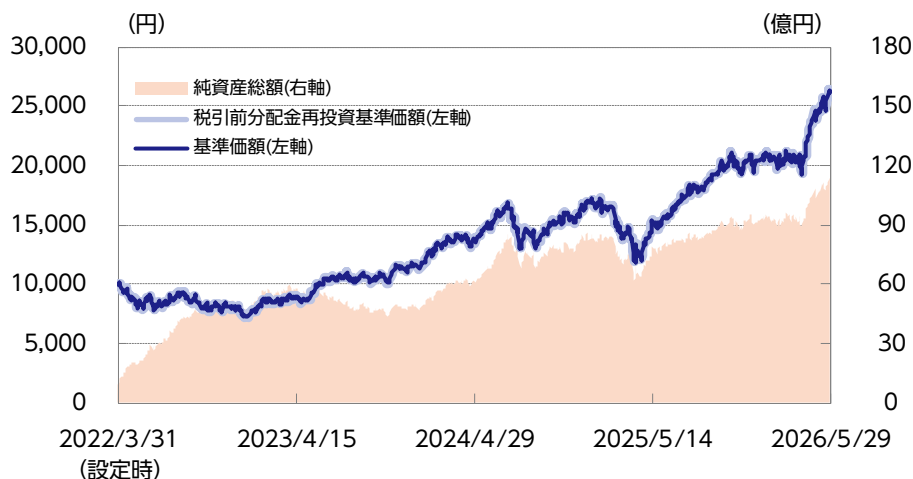




運用実績

基準価額・純資産の推移



基準価額および純資産総額

基準価額	26,231円
前月末比	2,447円
純資産総額	113億円

分配の推移 (1万口当り、税引前)

期	年月	金額
第1期	2022年08月	0円
第2期	2023年08月	0円
第3期	2024年08月	0円
第4期	2025年08月	0円
第5期	2026年08月	-
第6期	2027年08月	-
第7期	2028年08月	-
直近1年間累計		0円
設定来累計額		0円

基準価額の騰落率 (税引前分配金再投資)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	10.3%	26.1%	29.6%	75.3%	162.5%	162.3%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手続・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります(個人受益者の場合)。

※ファンド騰落率は分配金(税引前)を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りと異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

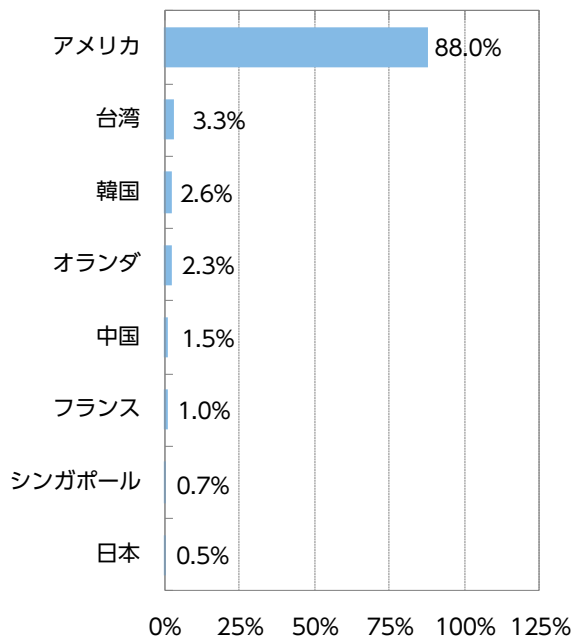
マザーファンドの状況

組入比率

株式等	94.7%
現金、その他	5.3%

※対純資産総額比

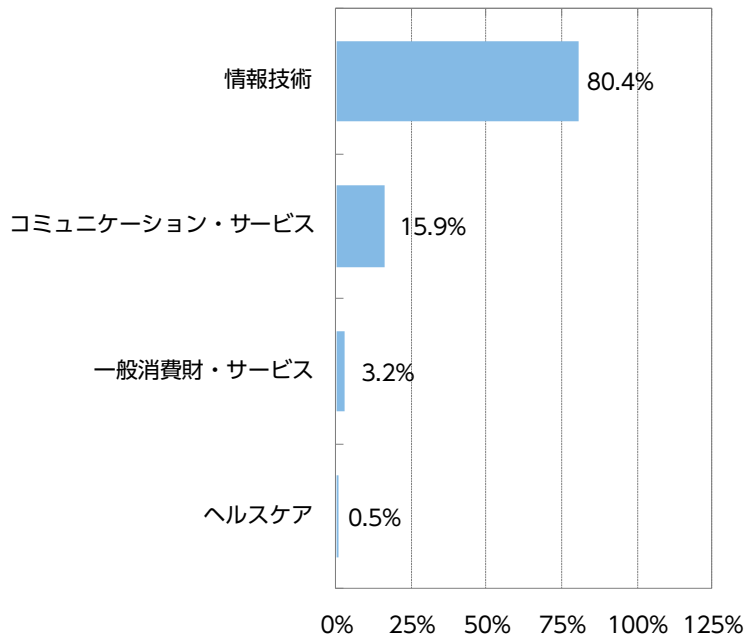
国・地域別組入比率



※対組入株式等評価額比

※国・地域はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。以下同じです。

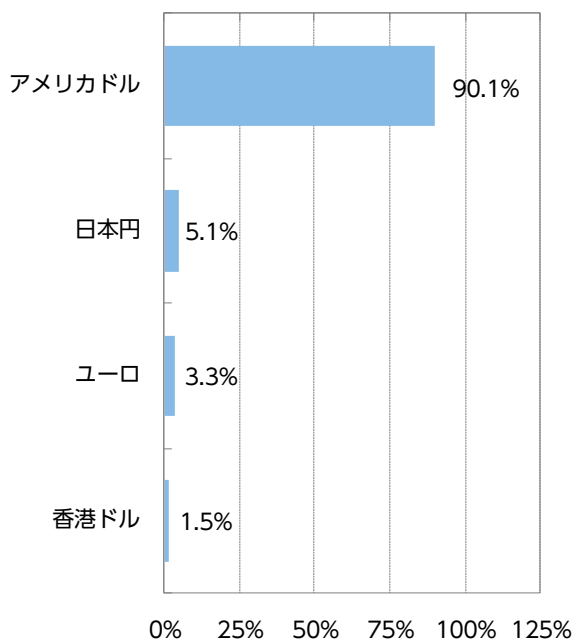
業種別組入比率



※対組入株式等評価額比

※業種はGICS分類(セクター)によるものです。なお、GICSに関する知的財産所有権はS&PおよびMSCI Inc.に帰属します。以下同じです。

通貨別組入比率



※対純資産総額比

組入上位10銘柄

(銘柄数：44)

順位	銘柄	国・地域	比率	銘柄解説
		業種		
1	シエナ	アメリカ	9.3%	通信ネットワーク機器・ソフトウェアのグローバルリーダー。中核の光伝送技術を用い大規模データトラフィックの安全な管理に不可欠な次世代ネットワークを導入・管理できるソリューションを提供。
		情報技術		
2	ブロードコム	アメリカ	8.4%	テクノロジーインフラストラクチャー企業、半導体やソフトウェアソリューション分野で業界をリードする製品・サービスを提供。ASIC（特定用途向け集積回路）でアルファベットやマイクロソフトと連携。メタバース関連ハードウェアの構築に同社のカスタムチップが使用される見通し。
		情報技術		
3	エヌビディア	アメリカ	8.1%	画像処理半導体メーカー。高度な3D画像処理技術を活かし、仮想空間で現実の環境を忠実に再現するためのプラットフォーム「オムニバース」を提供。3DCGの制作や製造業のシミュレーションなどさまざまな分野で活用されている。オムニバースは既に700社以上が利用。
		情報技術		
4	アドバンスト・マイクロ・デバイセズ（AMD）	アメリカ	5.9%	半導体の設計・開発企業。メタバースの実現にはデータセンターや表示デバイスなどの高機能化が不可欠であり、同社のサーバー用プロセッサ「EPYC」などの半導体は採用が相次いでいる。
		情報技術		
5	メタ・プラットフォームズ	アメリカ	5.5%	SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)「フェイスブック」などを展開。メタバース実現への貢献をビジョンとして掲げ2021年10月に社名を「メタ・プラットフォームズ」へ変更。VRヘッドセットやVR空間での会議スペースなど既に数多くのメタバースに関する技術やサービスを提供。
		コミュニケーション・サービス		

※対組入株式等評価額比

	銘柄	国・地域	比率	銘柄解説
		業種		
6	アプライド・マテリアルズ	アメリカ	5.3%	半導体製造装置の売り上げにおいて世界No.1の半導体製造装置・ディスプレイ製造装置メーカー。特に基板上に膜を形成する成膜装置に強みを持ち、メタバースを形成するコンピューティングパワーの増強に不可欠な機器を製造。
		情報技術		
7	テラデザイン	アメリカ	5.2%	エレクトロニクス、テレコム産業およびインターネット産業向けの自動検査装置（ATE）の世界大手メーカー。半導体検査装置の世界大手の一角でもあり、イメージセンサーなどに使われるSoC（システム・オン・チップ）テストに強みがある。
		情報技術		
8	アリスタ・ネットワークス	アメリカ	4.6%	ソフトウェア駆動型のコグニティブ（企業のニーズに対応する）・クラウド・ネットワーキング・ソリューションを提供。同社のクラウド・ネットワーキング・ソリューションは完全にプログラム可能でモジュール性が高いLinuxベースのオペレーティング・システムで、メタバースに必要な安全で高速なネットワーキングを実現。
		情報技術		
9	アルファベット（A）	アメリカ	3.6%	検索エンジンGoogleや動画配信サービスYoutubeなどの事業を傘下に抱える。Android向け基本ソフト（OS）やGoogleマップ向けの新しいAR機能を継続的に開発しており、XRハードウェアデバイスも開発。クラウドコンピューティング部門はメタバース開発においても重要な役割を果たしている。
		コミュニケーション・サービス		
10	台湾セミコンダクター（TSMC）	台湾	3.3%	世界最大級の半導体製造ファンドリー（半導体チップの製造を専門に行う企業）。ウェアラブルなどのデバイスからの半導体需要の増加に加え、データセンター向けのコンピューティング需要の恩恵を受ける。
		情報技術		

※対組入株式等評価額比

当月の市況動向

当月の世界株式市場は、戦闘終結に向けた米国とイランの交渉進展への期待が継続し、人工知能（AI）関連への旺盛な投資意欲や好業績を背景にAIインフラ関連企業への物色が続いたことから、上昇しました。

上旬は、米主要テクノロジー企業の好業績発表がけん引する形で、前月からの上昇基調を維持しました。

中旬は、米中首脳会談で目立った成果がなかったとの見方や、海上輸送の要衝であるホルムズ海峡の運航正常化に時間を要するとの懸念、米国のインフレ加速から世界的に長期金利が上昇したことを受け、これまで上昇してきた銘柄の利益確定とみられる動きが活発化しました。

下旬は、米国とイランが停戦延長で合意するとの見方が強まったことや、半導体企業をはじめとするAIインフラ関連企業が好業績を相次いで発表したこと、イーロン・マスク氏が率いる米宇宙会社スペースXが過去最大規模とみられる新規株式公開（IPO）に向けて正式に届け出を提出したことで投資家がリスク選好的な動きとなり、株価の上げ幅はさらに拡大しました。

為替は、政府・日銀による為替介入とみられる動きを受けて円高となりました。

ファンドの状況

当月の基準価額は上昇しました。

当月は、米・イラン和平合意への期待、保有する通信ネットワーク関連企業や半導体関連企業の好業績発表、AI関連への旺盛な投資意欲や好業績を背景に、データセンター等のAIインフラ関連企業に物色が集まったことなどが、当ファンドのパフォーマンスにプラス寄与しました。個別銘柄では、アメリカの半導体の設計・開発企業であるアドバンスト・マイクロ・デバイセズ（AMD）が最もプラスに寄与しました。当月に発表した1～3月期の業績において、データセンター事業がけん引して市場予想を上回り、4～6月期の見通しも売上高の成長が加速することを示したことなどから、株価が上昇しました。一方で、ソフトウェア駆動型のコグニティブ（企業のニーズに対応する）・クラウド・ネットワーキング・ソリューションを提供するアメリカのアリスタ・ネットワークスが最もマイナスに寄与しました。1～3月期の業績は市場予想を上回ったものの、サプライチェーン制約によって4～6月期の見通しは市場予想を下回ったことなどが嫌気され、株価が下落しました。

今後の見通しと運用方針

米エヌビディアは当月31日、ロボティクス研究向けに設計された初のオープン型ヒューマノイドロボット参照設計「NVIDIA Isaac GR00T Reference Humanoid Robot」を発表し、大きな話題を呼びました。このプラットフォームの中核となるのが「NVIDIA Isaac Lab」によるシミュレーション環境で、「NVIDIA Omniverse」や「NVIDIA Cosmos世界モデル」と連携し、リアルな物理シミュレーションのなかでロボットの行動データを大量に生成・学習させることができるようになってきました。ヒューマノイドロボットの研究開発においては、これまでシミュレーター、テレオペレーション、データパイプライン、インフラ構築をゼロから行う必要があり、研究者の大きな負担となっていました。これに対し、この仕組みはデータ収集からモデルのデプロイまでをカバーするフルスタックのプラットフォームを研究者に提供することを可能としています。エヌビディアは本プラットフォームとリファレンスモデルをオープンに提供する方針です。これらはメーカーや機種を超えた汎用的なロボット開発基盤となり、ヒューマノイドロボットの研究から実用化まで、世界中の開発を加速することが期待されます。

当ファンドは、長期的な視点で今後大きな成長が期待される「メタバース」に関連する技術、コンテンツ展開力、市場アクセス等に強みを持つ企業へ投資を行っています。投資にあたっては、「メタバース」関連の技術やコンテンツ等において企業として競争優位性を持っているのかを分析したうえで、今後、中長期的な業績成長シナリオを達成できると見込まれる企業への投資を行っています。

米国・イスラエルとイランの軍事衝突を巡る不透明感は強く、今後も原油価格の高止まりが継続した場合、世界の経済成長とインフレに対して大きな影響を与える懸念があります。特に1970年代のようなインフレ加速が金融市場にとってリスクとみられ、市場のボラティリティ（価格変動性）が当面高止まりすると見込まれます。一方でAI関連の投資が景気を下支えしていることや、技術革新のスピードと大手テクノロジー企業の資金創出力を背景に、AIを主軸とした新たな産業革命の進行が世界株式市場を下支えすると見込まれます。また、6月には米スペースXによる過去最大規模となるIPOが予定されていることや、世界的なスポーツ大会のイベントも控える中、今後の世界株式市場では投資家の関心の変化しやすい環境が想定され、セクターローテーション（景気の局面ごとに有望な業種別銘柄群に投資対象を切り替えていく戦略）の動きがみられる可能性があります。

経営への確かな執行能力を持ち、業績などの本質的価値と中長期的な目線で魅力のある企業の成長力、バリュエーション（企業の利益・資産など、本来の企業価値と比較して、相対的な株価の割高・割安を判断する指標）、株主への還元余力などを冷静に見極めて投資することが重要と考えています。

「メタバース」はこれから成長する技術でもあり、多くの技術やコンテンツ等は、比較的新しい中小の企業が持っていることも事実です。このため、当ファンドでは、時価総額などが小さい、規模の小さい企業群への投資がやや多くなる傾向にあります。この傾向については、「今後、これらの中小規模の企業が大きく業績成長することを期待して投資を行っている」とご理解いただけますと幸いです。銘柄選別にあたっては、「メタバース」をキーワードとして業績成長シナリオを想定しており、経営陣が確かな執行能力を持つと思われる企業の中から、長期的な成長力を重視しております。同時に、株価のバリュエーションを考慮し、相対的にバリュエーションが高過ぎる銘柄を排除するなど、慎重な銘柄選択を実施しております。今後も「メタバース」をキーワードに、長期的な成長を達成し、同時に企業価値を向上させることができる銘柄への投資を進めていきたいと考えています。

運用体制

原則作成基準日時点で入手しうる情報に基づきます。

2026年3月31日時点

運用責任者	三国 公靖※
経験年数	37年
運用担当部	株式運用部

※当ファンドの運用は三国公靖氏を運用責任者とするチームにて運営しております。

ファンドの特色

①日本を含む世界各国の株式のなかから、「メタバース」に関連する事業を展開する企業の株式に投資します。

メタバースとはメタ(meta：超越)とユニバース(universe：世界)を組合せた造語で、通信ネットワーク上に構築された仮想空間やそのサービスのことをさします。参加者はアバターと呼ばれる自分の分身を操作して、仮想空間内でさまざまな活動を行うことができます。

②DWSインターナショナルGmbHからの助言を活用し、株価上昇が期待される銘柄を厳選します。

③年1回決算を行います。信託財産の十分な成長に資することに配慮し、分配を抑制する方針です。

投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

基準価額の変動要因

- ファンド（マザーファンドを含みます）は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。

主な変動要因

株式投資リスク	株式は国内および国際的な景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受け、また業績悪化（倒産に至る場合も含む）等により、価格が下落することがあります。
為替変動リスク	原則として対円での為替ヘッジを行わないため、外貨建資産については、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。
カントリーリスク	外国の資産に投資するため、各国の政治・経済情勢、外国為替規制、資本規制等による影響を受け、ファンドの資産価値が減少する可能性があります。
流動性リスク	市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

❗ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- ファンドは、特定のテーマに絞った株式への投資を行います。したがって、株式市場全体の値動きとファンドの基準価額の値動きが大きく異なる場合、また、より幅広いテーマで株式に分散投資するファンドに比べ基準価額の変動が大きくなる場合があります。

分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

- ファンドは、多量の換金の申込みが発生し換金代金を短期間で手当てする必要が生じた場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等には、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引ができないリスク、取引量が限定されるリスク等が顕在します。

これらにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金の申込みの受け付けを中止する、また既に受け付けた換金の申込みの受け付けを取消しする可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

手続・手数料等

※基準価額は便宜上1万口当りに換算した価額で表示されます。

お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位とします。
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金時	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
	換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として6営業日目からお支払いします。
申込について	申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時30分までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。ただし、申込締切時間は販売会社によって異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にご確認ください。
	申込不可日	ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行のいずれかの休業日と同日の場合は、購入・換金の申込みの受け付けを行いません。 海外休日カレンダー： https://www.nam.co.jp/fundinfo/calendar/holiday.html#hdg01
決算・分配	決算日	8月10日（該当日が休業日の場合は翌営業日）
	収益分配	年1回の毎決算日に、収益分配方針に基づき収益分配を行います。
その他	信託期間	2044年8月10日まで（設定日：2022年3月31日）
	繰上償還	委託会社はあらかじめ受益者に書面により通知する等の手続きを経て、ファンドを繰上償還させることがあります。
	課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の対象となり、当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象となります。ただし、販売会社により取扱いが異なる場合があります。 詳しくは、販売会社にお問合せください。

❗ ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
購入時	購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に 3.3%（税抜3.0%）を上限 として販売会社が独自に定める率をかけた額とします。 ※料率は変更となる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。
換金時	信託財産留保額	ありません。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
毎日	運用管理費用（信託報酬）	ファンドの純資産総額に 年率1.8975%（税抜1.725%） をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。
	監査費用	ファンドの純資産総額に年率0.011%（税抜0.01%）をかけた額を上限とし、ファンドからご負担いただきます。
随時	その他の費用・手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。

- ❗ 当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。
- ❗ 詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

税金

分配時の普通分配金、換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）に対して、所得税および地方税がかかります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

- ・少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」は少額上場株式等に関する非課税制度であり、NISAをご利用の場合、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たしたファンドを購入するなど、一定の条件に該当する方となります。詳しくは、販売会社にお問合せください。
- ・外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が投資信託説明書（交付目論見書）の記載と異なる場合があります。
- ・法人の場合は上記とは異なります。
- ・税金の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ファンドに関するお問合せ先
ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者登録番号 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人資産運用業協会	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター 0120-762-506 9:00～17:00（土日祝日・年末年始を除く）
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	ホームページ https://www.nam.co.jp/
三菱UFJ信託銀行株式会社	

